

平成27年10月27日

研修報告書

松戸市議会議員

大塚 健児

研修:教育改革は家庭教育支援から切り込め!

主催:家庭教育支援センターペアレンツキャンプ代表理事

日時:平成27年10月27日(火) 10時~12時

場所:アットビジネスセンター東京駅八重洲通り

次第:1. 中間支援の重要性

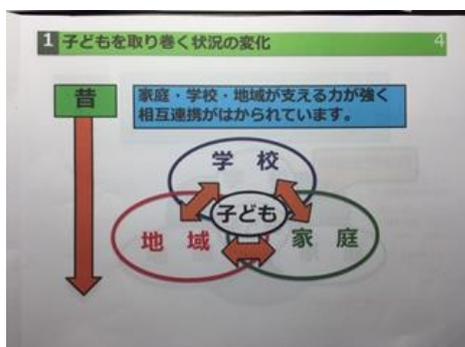
2. 家庭教育支援チームの実際

3. 文科省が考える家庭教育支援チームの役割とは

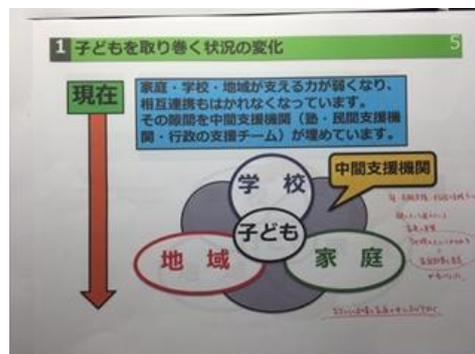
【研修報告】



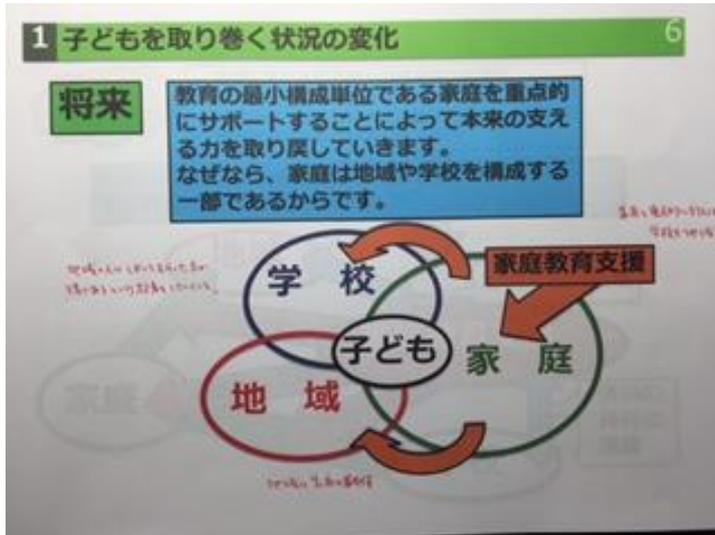
1. 中間支援の重要性



昔は相互連携があった

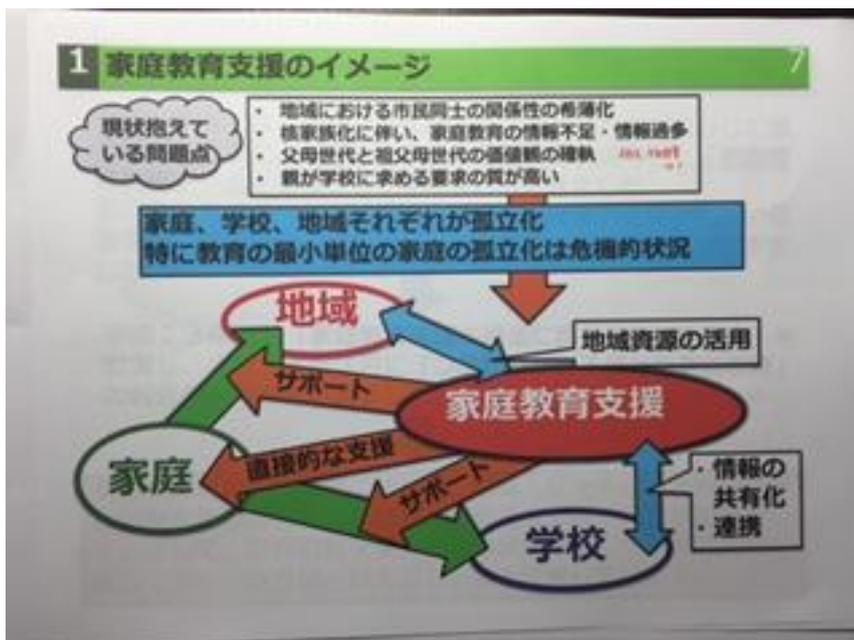


隙間を塾・民間支援・行政が埋めています



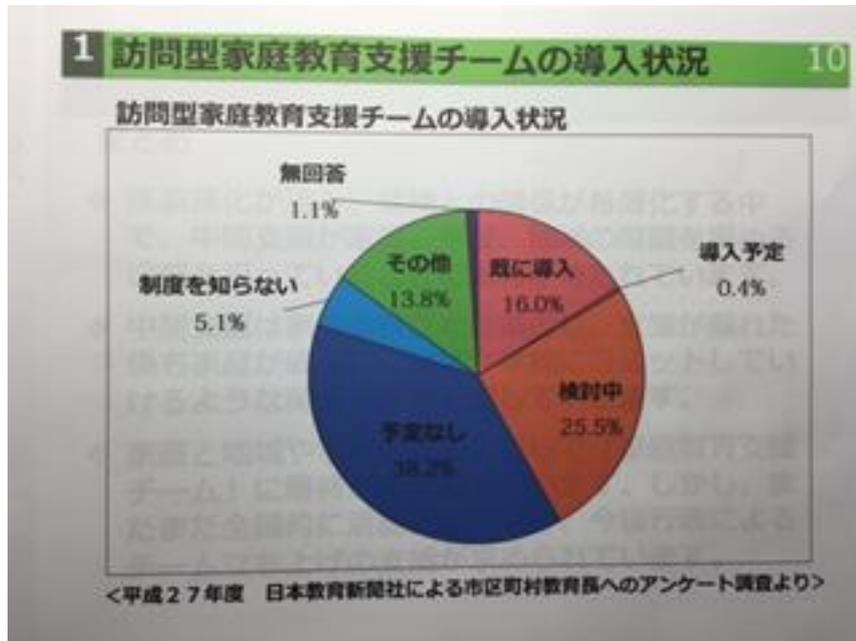
家庭に家庭教育支援を導入することで、本来の支える力を取り戻していきます。

そこで家庭教育支援のイメージは？



支援が届きにくい家庭に対して、地域人材を中心にきめ細やかな活動を組織的に行う仕組みを一層進めていくことが重要です。そして、家庭教育支援チームの体制をつくり、地域課題に応じて柔軟な取り組みが大切であると提言しています。

現在、全国で400近くの家庭教育支援チームが活動中



地域と学校の橋渡しとして「家庭教育支援チーム」に期待が寄せられています。

2.家庭教育支援チームの実際

●訪問型アウトリーチ支援事業

別府市は「訪問型アウトリーチ支援事業」をスタートさせました。

別府市の目的は数ある中で、特色のある目標は

「現在不登校等の状態にある子どもの学校生活への復帰」です。

つまり、復学支援を目標に入れたこと→「相談」から「解決」を公的機関が行う！

その他にも取り組み事例DVDを観て、様々な家庭教育支援チームの例を学びました。

※家庭教育支援チームは家庭教育行政のIPS細胞である！

3.文科省が考える家庭教育支援チームの役割とは

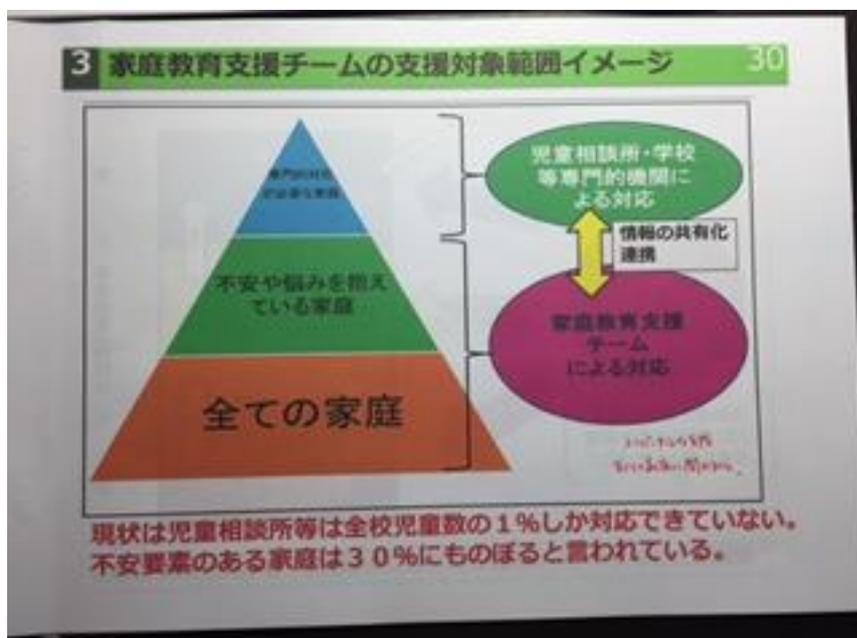
- ①保護者への寄り添い支援
- ②家庭と地域とのつながり支援
- ③家庭と学校等の関係機関とのつながり支援

家庭やその構成員の社会状況や経済状況、精神状況、身体的状況は様々であり、教育行政だけでは対処できないケースも多いと考えられます。

家庭教育支援チームは保健福祉関係機関等と家庭をつなげる役割も期待されています。

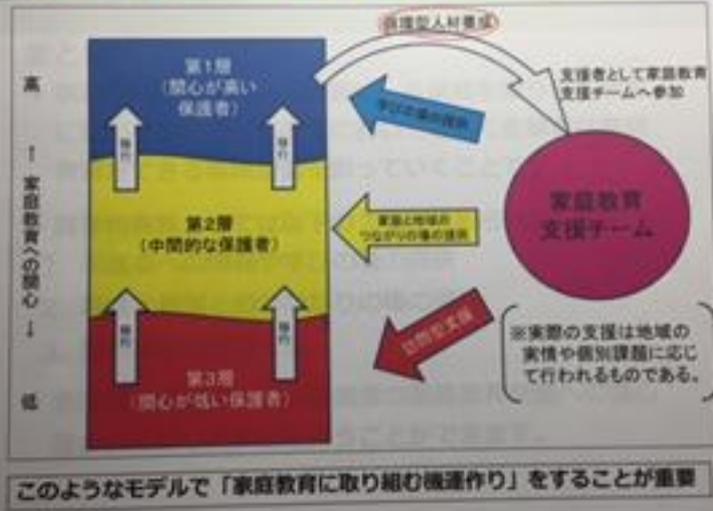
文科省が考える家庭教育支援チームの業務

- ① 保護者への情報や学びの場の提供
- ② 家庭と地域とのつながりの場の提供
- ③ 訪問型家庭教育支援(アウトリーチ型支援)



3 家庭教育支援の支援モデルイメージ

31



この図でのポイントは循環型人材養成です。

(まとめと感想)

DVDを観たことで具体的な家庭教育支援チームのイメージ像が見えてきました。時代の推移から、昔のような地域・学校・家庭のバランスが崩れ、家庭に家庭教育支援を導入することで、バランスが保てることがわかりました。

あとは、どう家庭教育支援チームを構成していくのか。目的を「相談」から「解決」にしていくのか等、目標や役割について、松戸市に合ったものを考えていく必要があると感じました。

以上